

沖縄で持続可能なフードパントリーを目指す

セカンドハーベスト・フードパントリー

【利用者回答】お米に関するアンケート

NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄

代表理事 奥平 智子

2025年6月11日(水)



目的



本アンケートは、物価高騰が続く社会状況の中で、利用者の食生活や家計の実態を把握することを目的として実施しました。

とくに、フードパントリーで配布されている3kgのお米が、日々の暮らしの中でどれほどの支えとなっているのかを検証するとともに、フードパントリーの存在意義や、それが利用者にもたらす心理的な安心感についても確認を行いました。

アンケートで寄せられた声は、今後の支援の質と量の向上、制度への提言、そして社会全体の理解を促進するための資料として活用していく予定です。

この調査を通じて、利用者一人ひとりの暮らしのリアルな声を広く社会へ届けていきたいと考えています。

アンケート期間

2025年5月26日（月）－6月10日（火）

アンケート対象者

セカンドハーベストフードパントリー利用者

回答率 約 38%

利用者 698名中 268名 回答

（参考）6月10日現在 パントリー利用者の市町村別内訳

那覇市37%、豊見城市31%、糸満市11%、浦添市3% その他 南風原町、南城市、八重瀬町、沖縄市、うるま市など

アンケート内容

1. 現在の世帯人数（ご本人含む）
2. お子さんの年齢（複数選択可）
3. ご家庭で1ヶ月に消費するお米の量
4. お米は足りているか
5. お米は主にどこで入手しているか（複数選択可）
6. 毎月お米にかけている費用
7. お米が高くなり、買う量や内容に変化
- 7-①.上記で「はい」を選んだ方どのように変えたか
8. ご家庭で「月にこれくらいあれば安心」と思うお米の量
9. お米5kgの「適正価格」と思う金額
10. お米が高くなったことで、代わりに購入が増えた主食
11. 食の支援で、あったら嬉しい食品
12. 食の支援を受けるにあたり、食品の衛生について気になること
13. 今のお米の高騰や食の困りごとについて、国や行政にどのような支援や要望

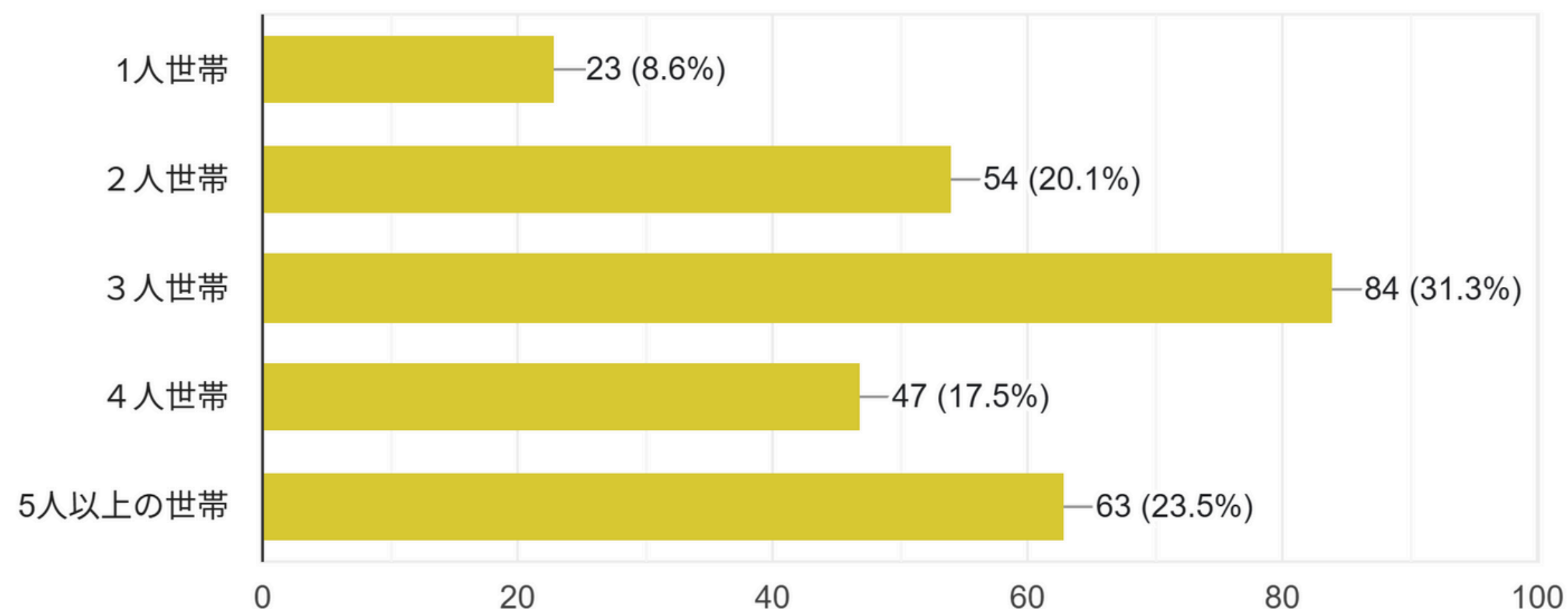


アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

1. 現在の世帯人数（ご本人含む）を教えてください。

268 件の回答



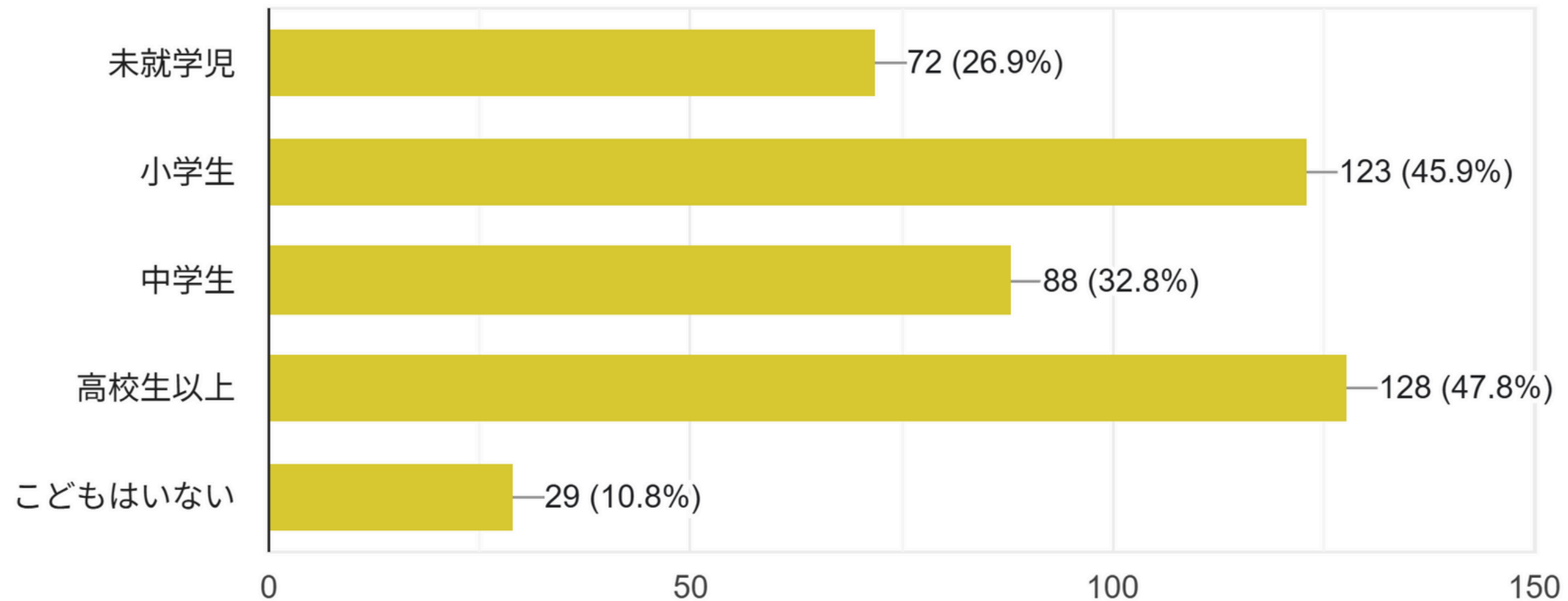
回答者の世帯人数は、1人暮らしから5人以上の多世帯まで幅広く分布している。
特に多かったのは3～4人世帯で、一般的な「親＋子」の家庭構成が多くを占めています。

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

2. 同居されているお子さんがいる方は、年齢を教えてください（複数選択可）

268 件の回答



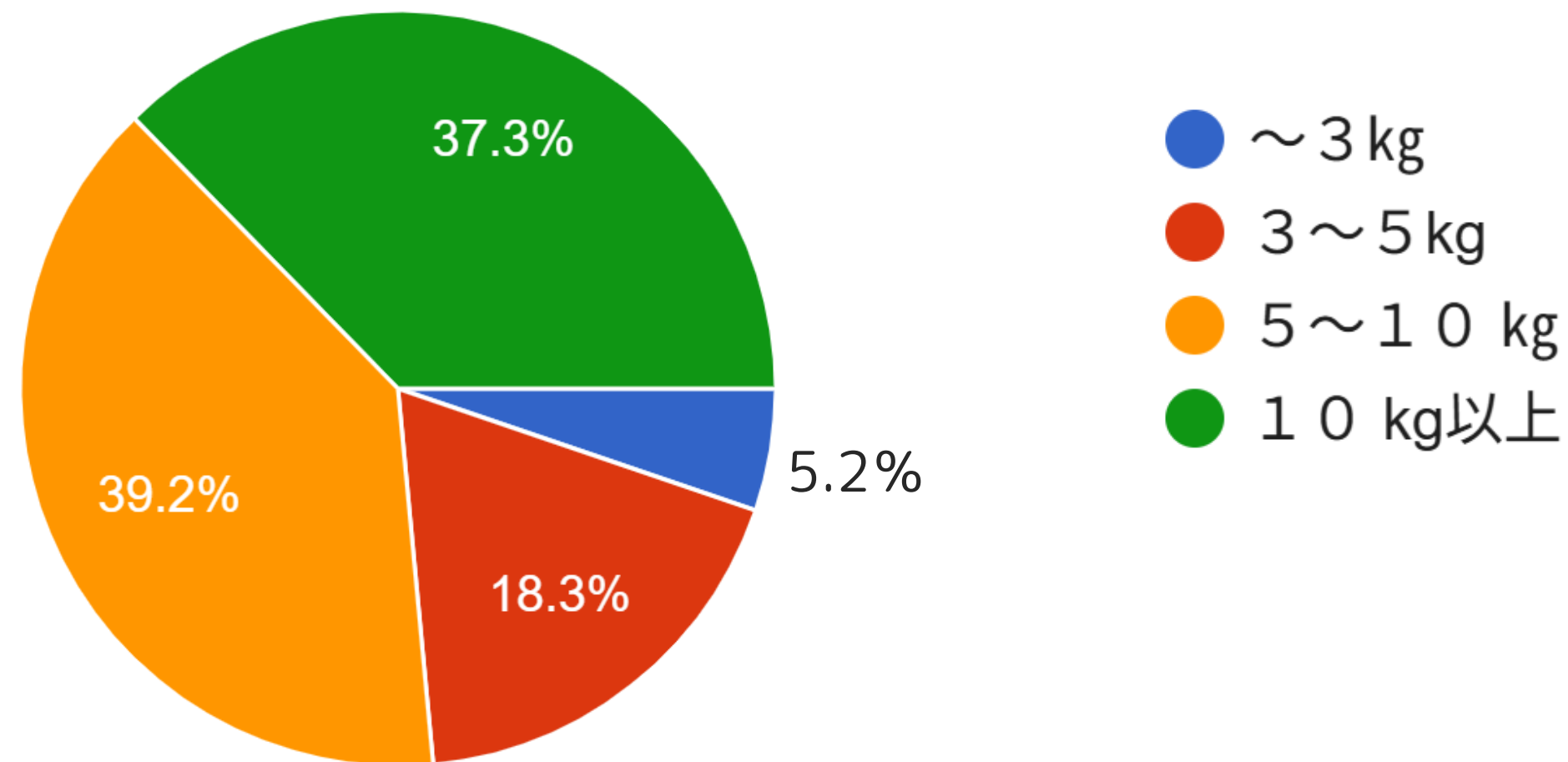
**0～12歳の未就学児・小学生を持つ家庭が多数。
成長期の子どもを抱える家庭がパントリーを利用している。**

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

3. ご家庭で1ヶ月に消費するお米の量（だいたいで構いません）を教えてください。

268 件の回答



10kg以上のお米を消費している家庭が全体の約半数を占めている。

3人以上の世帯においては、10kg～15kg、場合によってはそれ以上を消費している。

1日1人あたり1合（約150g）と仮定すると、4人家族で月に18kg前後消費する計算

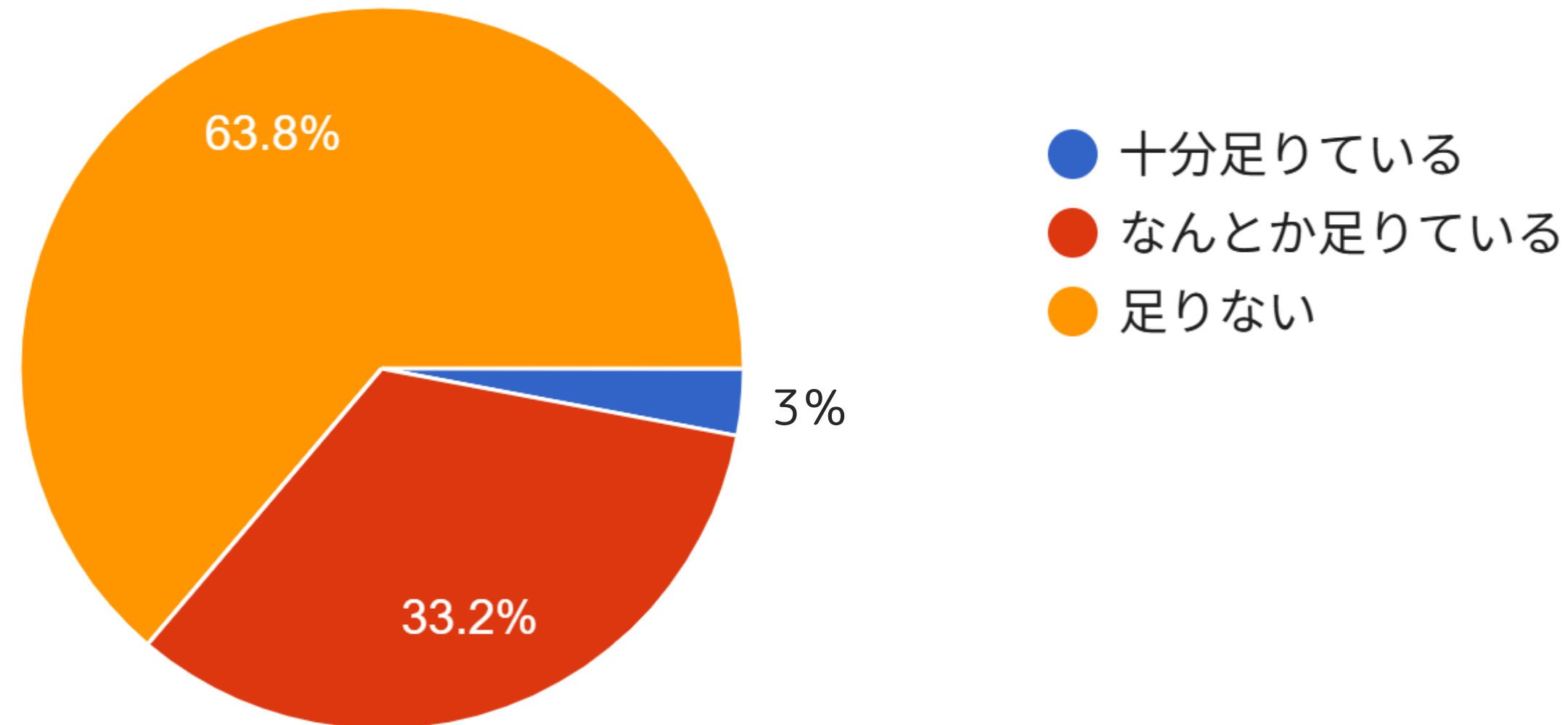
フードパントリーで配布している3kgは「家庭を支える主食」としては不十分である。

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

4. お米は足りていますか？以下から選んでください。

268 件の回答



約64%が「足りていない」と回答。

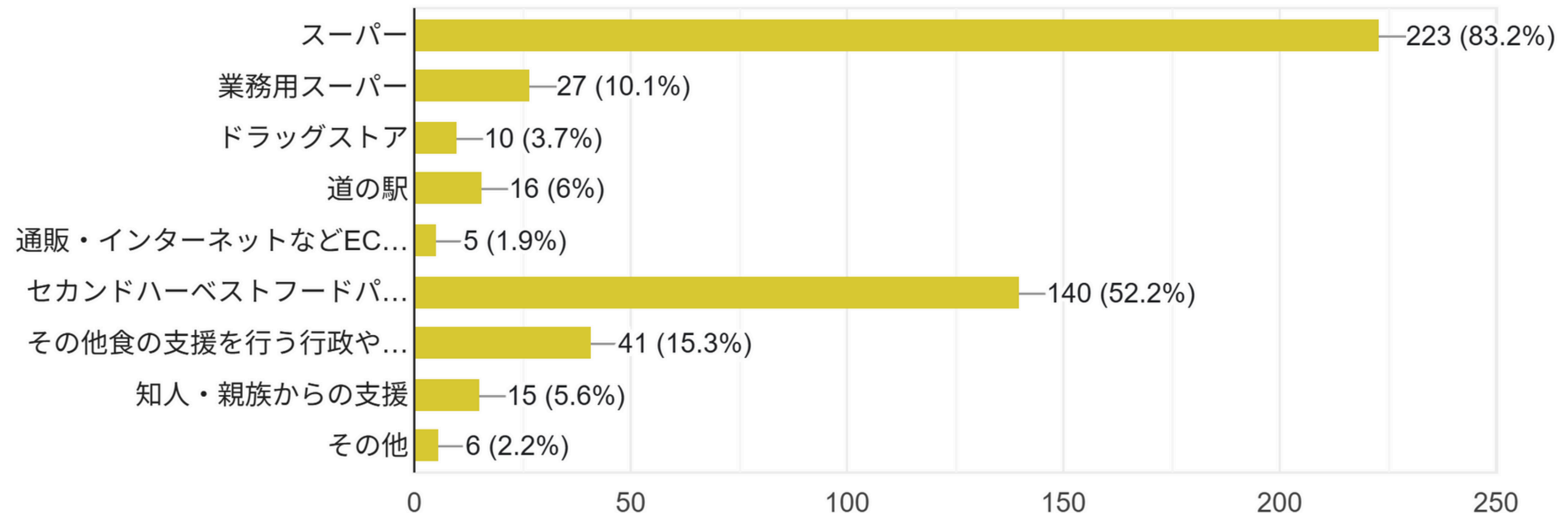
生活に直結する“主食不足”が慢性的に続いており、日々の食事に不安を感じている世帯が多い。

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

5. お米は主にどこで入手していますか？（複数選択可）

268 件の回答



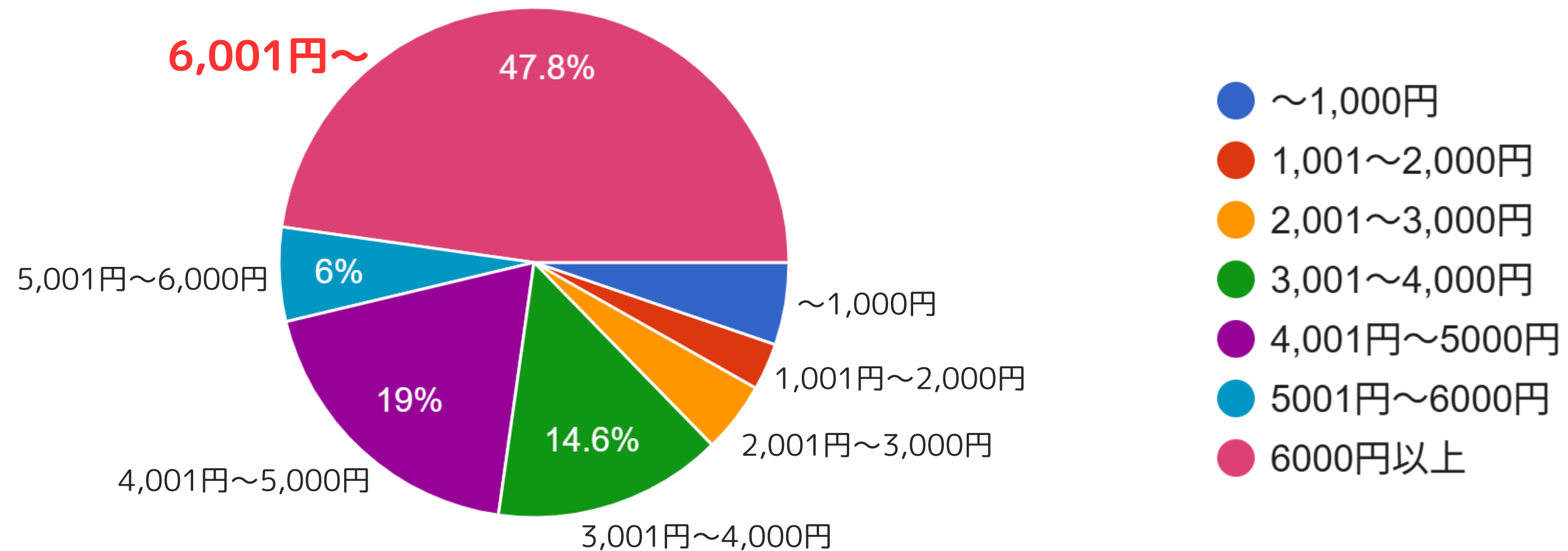
小売店での「購入」と答えた方が多く、次いで「セカンドハーベストフードパントリー」と回答。フードパントリーで提供している3kgのお米（およそ2,000円相当）が、生活の中で一定の“家計の軽減効果”をもたらしていると考えます。

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

6. 毎月お米にかけている費用はどのくらいですか？

268 件の回答



最も多かったのは「6,000円以上」で全体の47.8%を占め次いで多いのは「4,001～5,000円」（19%）と「3,001～4,000円」（14.6%）であり、全体の8割以上が月3,000円を超える出費をしている。これは主食であるお米が、家計において大きな固定費になっていることがわかる。

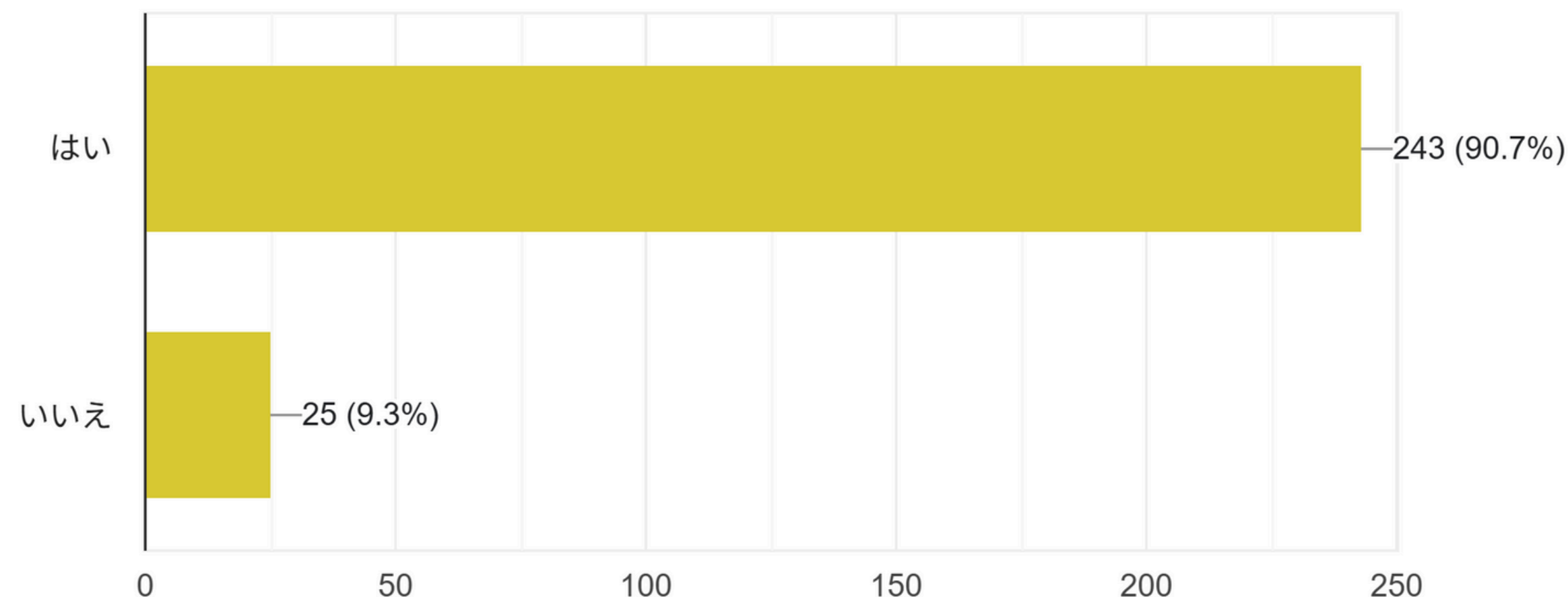
本資料の無断転載・複写を禁じます

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

7. お米が高くなり、買う量や内容に変化はありましたか？

268 件の回答



**回答者の約91%の方は買う量や内容に変化があったと回答。
ほぼ全世帯が物価高騰の影響を直接受けていることがわかる。**

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

7-①.上記で「はい」を選んだ方どのように変えましたか？（例：買う頻度を控えたなど）

◆1. 最も多かった傾向：

「買う頻度を減らした」「米の量を減らした」「安いお米（外国産・ブレンド米）に変えた」
→買い控え・質の変更・頻度の調整が家庭の中で“当たり前”になっています。特に「5kgから3kgへ変更」「ギリギリまで買わない」「炊く量を減らす」といった対応が目立った。

◆2. よく見られた代替手段：

「麺類（パスタ、うどん、沖縄そば）」「パン」への主食シフト
→「麺料理を増やした」「朝はパンにした」「夕飯を麺にする日が増えた」など、食卓の主食を米から別の食品へ切り替える工夫が多く見られました。

◆3. 特出した声：

- 「子どもには普通に食べさせて、自分は我慢している」
- 「食べ盛りの子どもの“おかわり”できないのがつらい」
- 「米が高くて、おにぎり→パンに、弁当→焼きそばに変えた」

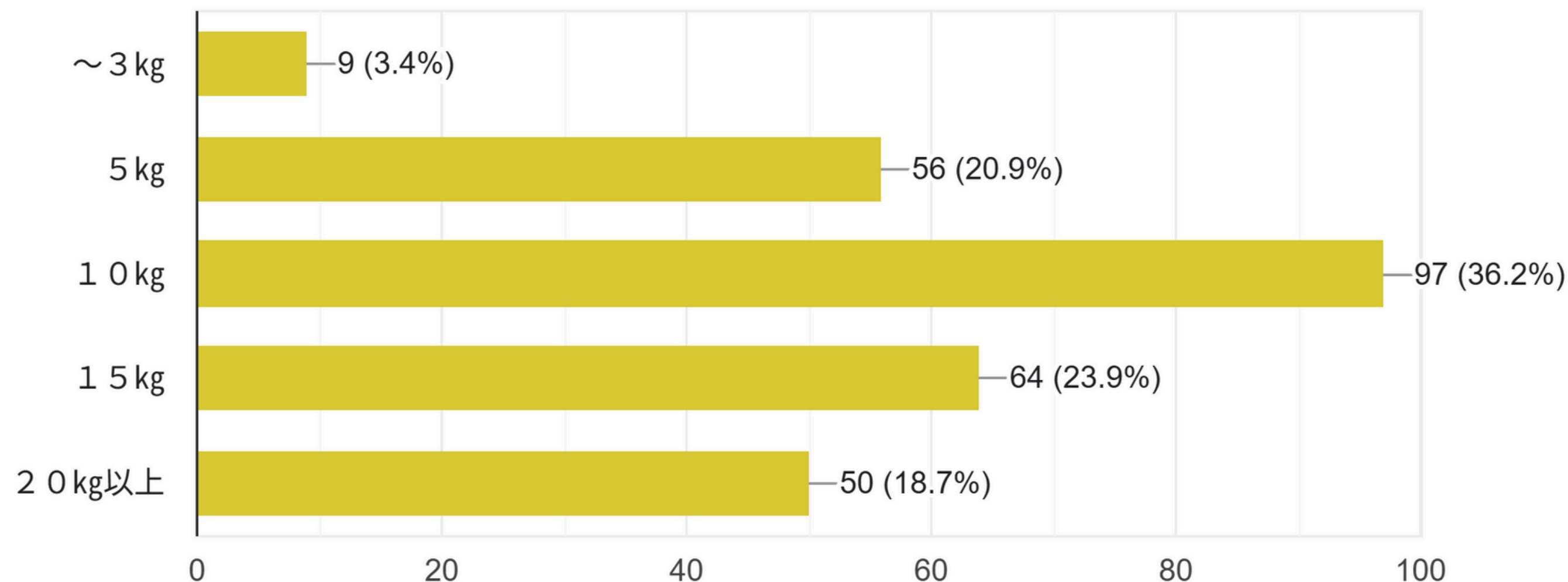
「食を減らすことのつらさ」「子どものおなか一杯を諦めさせる苦しさ」の声が多く含まれている。

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

8. ご家庭で「月にこれくらいあれば安心」と思うお米の量はどのくらいですか？

268 件の回答



最も多かったのは「10kg」（36.2%）で、次いで「15kg」（23.9%）、「5kg」（20.9%）、「20kg以上」（18.7%）と続いている。わずか3.4%のみが「3kg以下」で安心できると回答。利用者にとって必要なお米の約3割を、フードパントリーで賄い、生活の一部支援ができています。

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

9. お米5kgの「適正価格」と思う金額はどれくらいだと思いますか？

「2,000円～2,500円」の範囲に集中しており、特に2,000円ちょうどという回答が目立ちました。全体的には1,500円～3,000円未満の回答が大半を占め、現在の市場価格「4,000～5,000円超は高すぎる」と感じている人が多数派だということがわかりました。

【意見まとめ】

最多の回答：2,000円～2,500円前後

「今の価格は高すぎる」という声が多数

価格だけでなく、「継続して買えるかどうか」が適正価格の判断基準

一部「農家への理解」や「品質に応じた価格容認」の声もあった

「適正価格」は、“本当に必要なものを、無理なく買えるライン”

給料や収入が増えない中で、お米がどんどん高くなっていて、生活が追いつかない」苦しい状況が背景にある

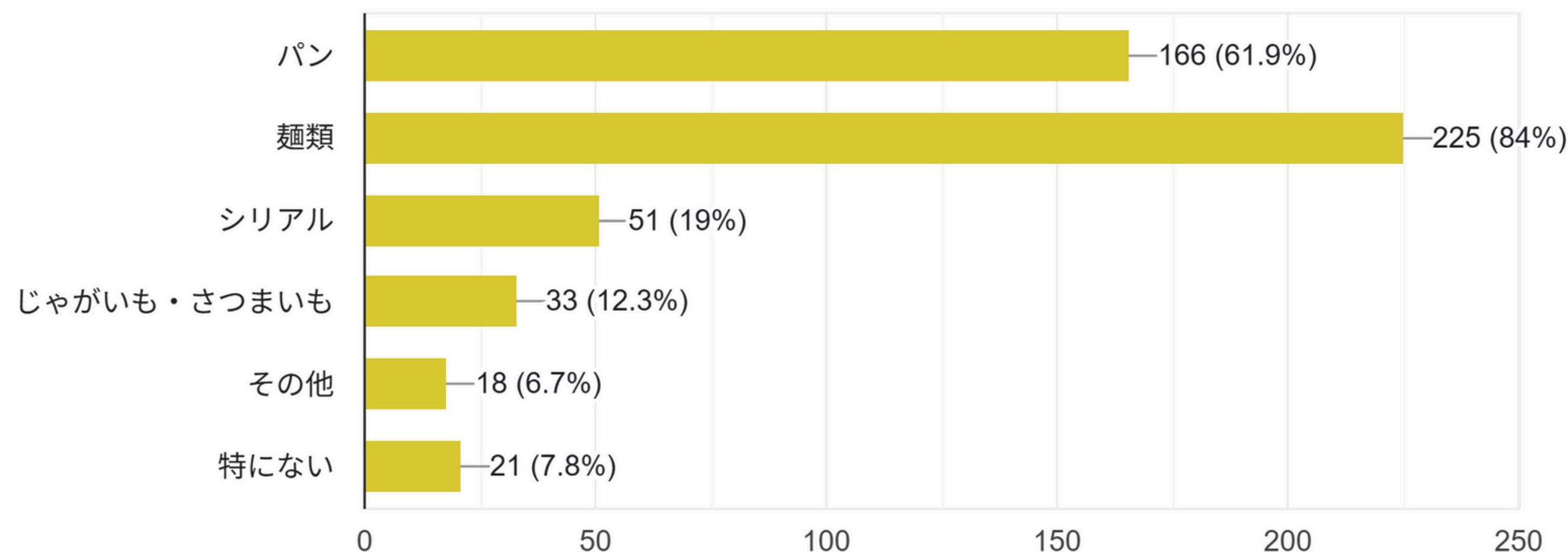
アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

10.

お米が高くなったことで、代わりに購入が増えた主...る食品があれば教えてください。（複数回答可）

268 件の回答



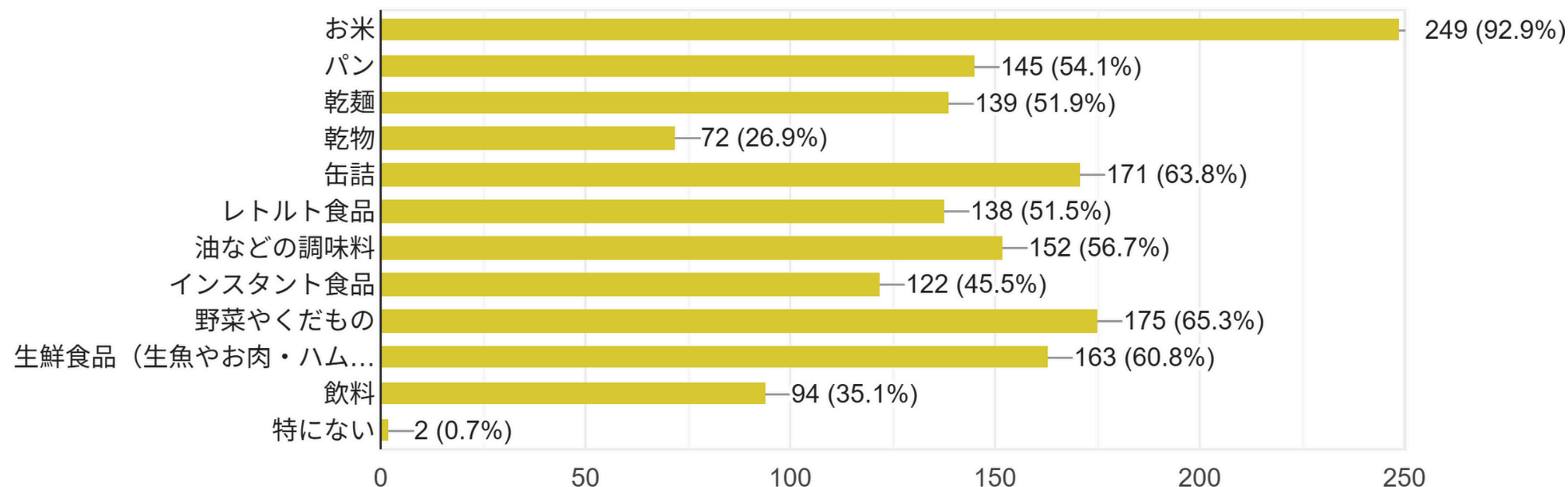
84%が「麺類」、61.9%が「パン」と答えており、2大主食としての米の代替に安価で手に入りやすい炭水化物食品が大きな役割を果たし、「シリアル」（19%）、「じゃがいも・さつまいも」（12.3%）といった他の主食的食品、その他として「おかゆ」「とうふ」「まめ類」「小麦粉類」「春雨」「味噌汁」「お腹を満たすこと”を目的とした選択が多く回答された。「空腹を我慢する」という回答も一部あった。

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

11. 食の支援で、あったら嬉しい食品を教えてください（複数選択可）

268 件の回答



最も多かったのは「お米」（92.9%）で、次いで「野菜やくだもの」（65.3%）、「缶詰」（63.8%）、「生鮮食品」（60.8%）、「油などの調味料」（56.7%）が続いた。全体的に「主食＋副菜＋調味料」のバランスを求める声が多く、“食事として成り立つセット”が望まれていることがうかがえた。

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

12. 食の支援を受けるにあたり、食品の衛生について気になることはありますか？

◆1. 多くの回答者は「特にない」「気にしていない」

「特にない」「気にならない」「ありがたいので何でも嬉しい」という回答が多数を占めており、全体としてフードパントリーへの信頼感や感謝の気持ちが強く表れていることがわかった。

◆2. 特に気になる項目として多く挙げたもの：

- 賞味期限・消費期限（特に短すぎるもの）
- お米の虫・カビ・湿気・保存状態
- 食品の傷み（生鮮・パン類など）
- 期限が当日の食品が多すぎて食べきれないという悩み

◆3. その他

一部「支援のお菓子里に異物混入のニュースを見て不安になった」「虫がいたことがある」など、実際の体験に基づいた意見や「子どもに渡すものは特に気になる」「消費期限と賞味期限の違いをはっきりさせてほしい」といった慎重な意見も寄せられた。

一方「贅沢は言えない」「もらえるだけありがたい」といった表現もあり、切実な生活状況の中で“支援をが欠かせない方々”の存在を改めて感じた。

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

13.今のお米の高騰や食の困りごとについて、国や行政にどのような支援や要望がありますか？

【最も多かった要望】

▶ お米の価格を「元に戻してほしい」「安くしてほしい」

回答の多くが
「お米の価格の高騰」に対して強い不安や不満を表明

特に
「5kg2000円程度であれば安心」という具体的な金額提示も多数

「米は生きるために必要な主食。国が責任を持って安定供給してほしい」という意見も

多くの家庭が“米が買えない＝日常の食事が成り立たない”
という危機感を抱いている。

本資料の無断転載・複写を禁じます

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

13.今のお米の高騰や食の困りごとについて、国や行政にどのような支援や要望がありますか？

【その他 強く感じた要望】

▶ 子どもを“お腹いっぱい食べさせたい”

「子どもに“もうないの？”と言われるのがつらい

「親は我慢している」といった声が多数。

子どもの
栄養が偏っている
給食さえ質が落ち
ている
痩せすぎが心配

子育て世帯にとって“十分な食事”は親としての責任と愛情である。
お米の支援や価格安定が、我慢させずに済む生活を支えることになる。

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

13. 今のお米の高騰や食の困りごとについて、国や行政にどのような支援や要望がありますか？

【要望として多かった具体】

▶ 食を含めた「確実に届く継続的」で包括的な支援を

お米券や食料クーポンの
配布（定期的なもの）

現金給付や商品券の支給

お米や食品の現物支給
（備蓄米の解放など）

非課税世帯に限らず
低所得層や多子世帯への支援

食品への消費税を
なくしてほしい

物価が上がっても生活保護費は変わらないことや
「支援が届かない世帯」に対する不公平感への訴えもあった。

アンケート結果

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

13.今のお米の高騰や食の困りごとについて、国や行政にどのような支援や要望がありますか？

【記述一部抜粋】

- 子供は大きくなれば食べる量が増えます。なのに大きくなると支援は減ります。この矛盾をなくして欲しいです
- スポーツで県代表になり、食べれる量も増やさないといけないのに満足に食べさせてあげられないのが悔しい
- 何を買うにしても高くなってるので、値段を下げてもらうか、最低賃金を上げてほしい
- 物価の高騰を改善、子育て世帯向けに紙おむつの支援、子育てしやすい環境づくり
- 税金を上げるなら、米や野菜(食品)の価格は下げて欲しい
- 家庭に最低限必要な分のおこめ券などの支援若しくは食料支援
- 支援米や、給付金欲しいです。お米の事ばかり考えています。
- お米以外も価格が高騰しており、生活が厳しいです。少しでも子供達に食べさせてあげたい
- 子育て世代(成長期の子)達に支援があると助かります
- 収入は変わらず何もかも高騰しているので、食べ物だけでなく衣類や学用品を揃えるのも大変です。
- 農家を、応援して安心安全な作物で、不安なく子供達にお腹いっぱい食べれる世の中になるよう考えて欲しい。
- 生活を安定させるため収入を増やせば税金等もおのずと上がり、金銭的な援助(給付金など)は受けられなくなっていく。
生計を立てようと必死になればなるほど、首が閉まる。そんな中物価高。そうなってくると食料品等を削るしかなく、暮らしは豊かになるどころか乏しくなる一方。無料の食糧支援等も仕事をフルタイム、Wワーク等していると受け取りすら厳しい。利用したくてもできない現状。
- 本当の貧困を知らない人が多い。栄養のある食事を誰もが平等にいただけるようになって欲しいです。
- こどもたちにおかわりさせたいとか、おなかいっぱいなんて贅沢は言いません。普通のご飯の量を食べたいです。

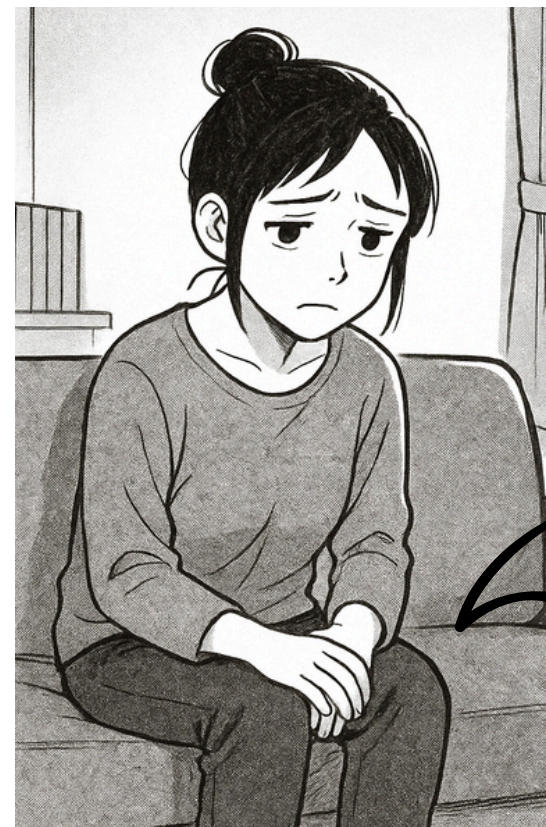
沖縄の物価高と貧困の背景

- ◎ 沖縄の物価上昇率は全国平均を上回り、家計への圧迫が深刻（琉球新報 2025年3月）
- ◎ 離島県であることによる輸送費や物流コストが価格高騰の一因。
- ◎ 沖縄県の子どもの貧困率は依然として全国最下位。（2024年度の「沖縄こども調査」の報告書）
- ◎ 貯蓄ゼロ世帯が多く、急な出費や物価変動に対応できない家庭も多数（QAB 2025年3月）

問い合わせから見えるニーズの深刻さ

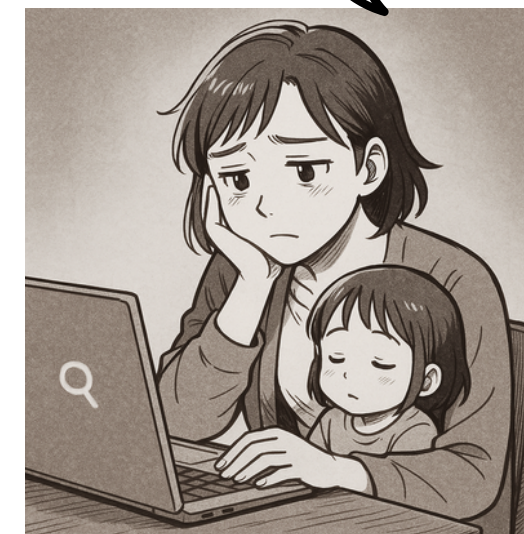
◎ フードパントリー利用希望者から、毎日のように切実な問い合わせ。

仕事を掛け持ちし、高齢の母親のお世話しながら経済的に厳しい生活を送ってます。支援があれば食事に悩まずに済みます



仕事をしておらず、
旦那も転職したばかりで
経済的に厳しいです。

物価高騰のため食糧支援
してもらえる先を検索し
サイトに辿り着きました。



身体を壊して仕事ができ
ずかいていけません。
恥ずかしいですが、
食べ物を頂けますか。



◎ 高齢介護、病気、失業、母子家庭など複合的な困難が背景。

◎ 新規利用者が増加する一方、リピーターも約8割と根深い経済的困窮が続く。

NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄からの願い

フードパントリーは、「今日、食べるものがない」「明日から食料を得られない」といった
危機に直面した人が、地域のなかで頼れる場所です。
病院や消防署のように“当たり前”に存在する“食のセーフティネット”として、
私たちはこの仕組みをつくってきました。

しかし今、その支え手であるフードバンク自身が、
物価高騰による食料・運営資金の不足に直面し、継続が危ぶまれる状況です。

民間の善意や助成金だけでは限界があり、制度として支える仕組みが急務なのです。

子どもたちの健やかな成長、家庭の安心を支えを行っているフードバンクを含む支援団体が
地域の中で当たり前機能するよう、制度的な後押しを切に願います。

NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄からの願い

食品寄贈の激減と運営資金の不安定さ

お米をはじめとした食品寄贈が大幅減。

助成金等で食料確保を続けるも、安定的運営が困難に。

沖縄県・市町村からの継続的な支援は現時点でない。

フードバンクが地域の食支援の「最後の砦」になっている現状。



NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄からの願い

支える側も物価高騰の影響を受けている

食品だけでなく、倉庫・設備・光熱費などの維持費も高騰。

食品管理・分配を行う人材確保にも費用が必要。

「食品の支援＋運営費の支援」両輪の整備が必要不可欠。



NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄からの願い

提言：支援団体を支える仕組みづくりを

食支援を求める家庭が増え続けるなか、支援団体自身の持続可能性が問われている。

食のセーフティネットとしてのフードバンクを制度的に位置づけ、地方自治体や企業からの安定支援を制度化する必要性がある。

